



それは、まずあの「私は今なお二十年前に起った怪奇とも不思議とも形容しがたい、あの戦慄すべき事件を思いだすと……」式なハツタリ・プロローグの廃止から始まった。こういう言葉は、冒頭いきなり読者を、作品の世界へ誘導するために書かれていたのだが、今日の読者は、かえって、こういう書きだしには、「またか」という反撥こそ感じて、もはや魅力をおぼえなくなってきた。これは、あきらかに前時代の米英探偵小説の古典からの模倣であって、まったくの通俗小説ならともかく、多少とも知的であろうとする小説を求める読者には、もはや往年の魔力をもっていないのである。

「日本推理小説の曲り角」 十返肇

